

# 平成28年度 世界自然遺産に関する取組発表会 概要報告（父島）

日 時：平成28年4月20日（水）午後7時～9時  
会 場：ビクターセンター多目的室  
参加者：44名（父島村民23名、事務局関係者8名、  
行政関係者13名）



取組発表会の開催風景

今回の取組発表会では、「世界自然遺産に関する取組発表」、「世界自然遺産に関する村民意向調査の全体結果」、「今後の予定」をはじめ、村民の皆さまに広くご意見をうかがいました。

これらの意見を、テーマごとに以下にまとめました。

今後は、いただいたご意見をふまえ、小笠原で暮らす皆さまの生活や産業にも十分配慮しながら、小笠原の世界自然遺産の価値である自然環境を守る取組を、村民の皆さまにご協力いただきながら進めてまいります。

## 1. 世界自然遺産に関する取組発表 （●：村民の意見    ○：行政機関の意見）

### <シロアリ対策における薬剤使用について>

- シロアリ駆除のために、都道沿いの地下ケーブルの周りや公園内のトンボ池の真横などでフィプロニルを撒いているが、この薬剤は人体や土壌生物・鳥類などに影響があるのではないか。
- フィプロニルという成分は神経毒であると聞いている。都住のシロアリ防除をする際には、居住者に使われる薬剤の毒性やリスクをきちんと説明してほしい。その上で住民が判断すればよいと思う。ベイト剤は、それほど危険性がないと聞く。
- 都道沿いでは、地下ケーブルがシロアリの被害に遭わないように平成23年から25年まで薬剤が散布されている。公園は集落が近いため、シロアリ対策として薬剤を散布する必要があった。今後、薬剤による対策を行う場合は、必要性や影響を十分に検証し、村民に説明していきたい。ただし、その薬剤を用いなくてはならない場合があることはご了承いただきたい。（東京都）
- 小笠原村ではシロアリの薬剤は何を使っているのか。後日回答して欲しい。

### <アノール対策について>

- 兄島のアノール防除柵は、アノールがいなくなったら撤去するのか。
- 撤去する。（環境省）
- 兄島のアノールを捕獲するために在来種のオガサワラトカゲが混獲され過ぎている。混獲されないような工夫、在来種のモニタリングは行っているのか。
- アノールとオガサワラトカゲの生態は似ており、混獲を防止しきれていないが、トラップの設置場所を工夫するだけで混獲数が減ることもある。技術開発は進めたいが、すぐに開発が進むことを期待できないのが現状である。オガサワラゼミの混獲を防止する工夫は効果が上がっている。オガサワラトカゲの混獲数をモニタリングしており、現時点で減っている様子はない。（環境省）
- 母島の新夕日ヶ丘のアノール対策は10年間で根絶できていないにもかかわらず、兄島では新たな防除柵であるCラインが計画されている。防除柵による効果の検証は行っているのか。アノール防除柵の設置により自然破壊の方が進んでしまうのではないか。

○母島の対策では、柵内のほうが、昆虫相が豊かという結果が出ており、柵の効果を見ながら改善を重ねている。母島の新しい柵の効果は、今後モニタリングしていく。(環境省)

●ヨコバイやウンカなど昆虫相が偏っているように見受けられる。

○他の調査方法で柵外と柵内の昆虫相を比較すると他の昆虫も確認されるかもしれない。(環境省)

#### <外来植物対策について>

●外来植物の駆除は水系でも行っているのか。駆除に使う薬剤は何か。

○使用剤はラウンドアップのみである。集水域で薬剤を使った駆除は行っていない。(林野庁)

●兄島東部の財務省の土地にモクマオウが生えているが、管轄が異なるから駆除できないのか。

○全域で外来植物駆除をできる状況にはなく、兄島は特にアノール対策を優先している。(環境省)

○国有林にも、まだ外来植物が多くあるため、財務省の土地で駆除を行う予定はない。(林野庁)

#### <ノヤギ対策について>

●父島のノヤギを根絶する目途はあるのか。

○数百頭まで減らしてきているが、根絶までの青写真は描けていない。ノヤギの減少による外来植物の繁茂への対応など、ノヤギと外来植物の両輪の対策で進めたいと考えている。(東京都)

#### <事業における自然環境への配慮について>

●内地の業者が島で事業を行う場合、小笠原の自然環境に配慮することを伝える仕組みはあるのか。

○都事業では委託時に手引書を渡しているが、その下請け業者にも配慮事項が伝わるように努力しないといけない。(東京都)

#### <ドローンについて>

●ドローンへの対策は考えているのか。生息数の少ない在来動物との衝突など影響が心配である。

○自然公園法でドローンの飛行は禁止していないが、都立公園内での飛行には規制があるはずである。ただし、人の立ち入れない場所での調査等にドローンが有効になることもある。(環境省)

### 2. 世界自然遺産に関する村民意向調査(全体結果) (●: 村民の意見 ○: 行政機関の意見)

●意向調査の結果から、村民は遺産に賛成なのか、反対なのか。

○一概に賛成と反対どちらの結果が出たというわけではないが、一定の不満もみられた。今回の調査結果を行政機関で共有して、今後の取組に活かしていく必要がある。(小笠原村)

### 3. 今後の予定 (●: 村民の意見 ○: 行政機関の意見)

#### <ネズミ対策について>

●ネズミ駆除の状況はどうなっているのか。

○今年度に兄島で殺鼠剤の空中散布を予定しており、今後の会議で具体的につめていく。(環境省)

●南島のネズミ対策の状況はどうか。また、南島のネズミが父島から渡ってきたネズミかどうかDNA解析をしてはどうか。

○駆除数や残存個体数は把握できていないが、巣がある可能性がある地点は重点的に対策したい。DNA解析を行ったところ、父島と南島のネズミのDNAは異なるという結果だった。(東京都)

#### <その他の外来種対策について>

●ミカンコミバエとアフリカマイマイの対策は行っているのか。

○ミカンコミバエはちょうど30年前に根絶されて以降、再侵入はしていない。現在もモニタリングにより、その状況を把握している。(東京都)

●農業委員の立場として、アフリカマイマイは増加傾向のようであり、農業被害を受けている方は支庁産業課に相談するとよい。自然環境に影響を与えない薬剤もあり、農協にも売っている。